

旧どどど企画和田忌公演

スクスクの冒険〜上を向いて歩こう〜

萬野 展

第一話・スクスクの冒険

鳥羽スクスク 少年。

鳥羽ムチムチ スクスクの妹。

鳥羽一郎 スクスクの父。私立探偵。

長谷川・ウエリントン・P子 スクスクの母。妖怪ハンター。一郎の元妻。

鳥人間 妖怪。(ムチムチ)

長寿庵 ソバ屋のおやじ。(鳥羽一郎)

第二話・オーディション

頂 富士子 17歳。女優志望。

吹雪くらら 18歳。女優。富士子のライバル。(ムチムチ)

橘 愛綺堂 芸能界の黒幕。オーディションの審査員。(P子)

梅中川巨泉 富士子の恋人。

第三話・取調室にて

久遠寺龍子 富豪令嬢。(富士子)

戸塚達郎 龍子を取り調べる戸塚署の刑事。(スクスク)

戸塚署吹奏楽団 戸塚署の刑事で構成するバンド。(全員)

長寿庵 ソバ屋のおやじ。(鳥羽一郎)

第一話 スクスクの冒険

楽器を手にした人々が後方を囲んでいる。
デハケ口がないので、全員が出ずっ張りである。
楽器の人々は、心理描写の音などを、自らの責任において発してよい。
芝居は、唐突に開始される。

少年（鳥羽スクスク）がひとり、ぽつんと立っている。

スクスク ええと、ちょっと本を読みます。（本を開いて）：「僕の名前は鳥羽スクスク。十四歳の少年である。視力は両眼とも1.5。やぎ座。好きな食べ物は、煮物。僕はいまひとりぼっちだ。血液型はA型。家族は僕を含めて三人いる。でもいまはひとりぼっちだ。家族のひとは僕のお父さんと、名前は鳥羽一郎。視力はわからない。おとめ座。私立探偵をしている。好きな食べ物は、煮物。お父さんは滅多に家に帰ってこない。忙しいのだ。お父さんは背が高い。お父さんはときどき顔中に髭を生やしている。変装のためらしい。お父さんはときどき髪の毛が薄い。変装のためかもしれない。お父さんに髭があるのかわからない。本当のところはよくわからない。頭だって本当はフサフサなのかもしれない。背は高い。それも変装かもしれない。お父さんはあまり家に帰ってこない。お父さんはそれをずいぶん気にしている。でも仕方がない。探偵の仕事が忙しいのだ。

長寿庵登場。

長寿庵 へい、お待ち。長寿庵です。

スクスク …。

長寿庵 カツ丼です。

スクスク 頼んでないけど…。

長寿庵 お代は頂いてますから。

スクスク そうですか。

長寿庵 あったかいうちにどうぞ。

スクスク はあ。

長寿庵 そいじゃ、毎度ッ。

スクスク お父さん。

長寿庵 …（ギクリ）

ギクリの音。

スクスク お父さん？

長寿庵 長寿庵でげす。

スクスク 長寿庵さん。

長寿庵 …（ギクリ）

ギクリの音。

スクスク 僕の妹、知りませんか？

長寿庵 …。

スクスク 妹が帰ってこないんです。それで僕、ひとりぼっちなんです。

長寿庵 …。

スクスク 妹はどこに行っただんでしょう。

長寿庵 …。

スクスク 長寿庵さん。

長寿庵 …。

スクスク 何か知ってますね。

長寿庵 …。

スクスク お父さん。

長寿庵 …(ギクリ)

ギクリの音。

スクスク 長寿庵さん。

長寿庵 …(ギクリ)

ギクリの音。

スクスク お父さん。

長寿庵 …(ギクリ)

ギクリの音。

長寿庵、ギクギクしながら退場。

スクスク …お父さんもあれでなかなか大変だ。(本に戻り) もうひとりの僕の家族。

四つ下の妹。鳥羽ムチムチ。牡羊座。行方不明だ。ずっと、帰ってこない。電話もない。十歳の少女。好きな食べ物、煮物。そんなわけで僕はひとりぼっちだ。(本を閉じる) ……カツ丼食べよつと。…カツ丼のなかに紙切れが入っている。そこにはこう書かれている。「P子に聞け」お父さんの字だ。P子。ずっと昔、いつしよに住んできた。もう何年も会っていない。お父さんはぼくたちに内緒で時々会っているようだ。(長寿庵、後ろでギクリ)僕は顔を覚えていたけど、ムチムチはもう忘れているかもしれない。お父さんと、昔結婚していた人。僕とムチムチを産んだ人。ムチムチが幼稚園に入った年に、お父さんと離婚して、この家を出ていった人。長谷川・ウエリントン・P子。妖怪ハンター。得意料理、煮物。

P子、鳴り物入りで登場。
手負いである。

P子 (鳥人間を撃退している) おぼえてらっしゃい! …もう! 今度見つけたら絶

対やつつけてやるんだから。

スクスク …。

P子 なに見てんの。見せ物じゃないのよ。

スクスク …。

P子 あっちお行き。

スクスク …あの…p子さん、僕…

p子 あんたなんであたしの名前を…ウツ。

p子、傷を押さえる。スクスク駆け寄って介抱する。

スクスク だいじょうぶ？

p子 触らないで！

スクスク でも…

p子 これを鳴らして…。

スクスク え？

p子 早く！

スクスク、p子の持つ楽器を取り、鳴らす。

p子の傷が癒えていく。

p子 ありがとう。もういいわ。

スクスク どうしたの、その傷。

p子 鳥人間よ。

スクスク 鳥人間？

p子 そう。妖怪よ。さっきまで戦ってたの。一勝一敗よ。ホラ、あそこでまだこっちを見てる…

鳥人間、物陰からじっと見ている。

スクスク …ムチムチ？ ムチムチじゃないか！

運命が奇怪な音を奏でる。

駆け寄ろうとするスクスクを抑えるp子。

スクスク ムチムチだよ、お母さん！ あれはムチムチだよ！ ムチムチーッ！

p子 いいえ。あれは鳥人間よ。騙されちゃだめ。

スクスク だって、ほら！ 顔が同じだよ！

p子 スクスク！

p子、スクスクをはたく。

p子 目を覚ましなさい！ どんなに顔が同じでも、あれはムチムチじゃない。鳥人間よ。そしてあたしはもうあんたのお母さんじゃない。ムチムチは鳥人間にさらわれたのよ。悔しかったら鳥人間を捕まえなきゃダメ。大きくなったわね、スクスク。

スクスク …。

p子 反応に困っているわね。そんなところがお父さんにそっくりよ。

スクスク ムチムチがいなくなっちゃたんだ。

p子 わかってるわ。ていうか、人の話をよく聞いてね。

スクスク それで、お父さんがこれを。(紙切れを渡す)

p子 (読む) この子を頼む。一郎。(紙切れを握りつぶす) わかったわ、一郎。スクスク えっ。

p子 さあ、スクスク、続きを読んで！

スクスク (慌てて本を開き) こうして僕たち親子の冒険の旅が始まった。子細は略すが、ついに僕たちは鳥人間の巣を突き止めたのだった。

鳥人間、登場。

p子 どうとう見つけたわ鳥人間。スクスク!

スクスク、楽器を鳴らす。
鳥人間、喜んで飛び回る。

p子 喜んでるじゃないの!
スクスク …。

スクスク、音を変えて鳴らす。
鳥人間、寝たり、泣いたり、ぼう然としたりするが、子細は略す。

p子 やったわ…。とうとう…。スクスク!

スクスク うん。…ムチムチは? ムチムチを助けなきゃ!

p子 (倒れた鳥人間の側に跪き) ムチムチ…可哀相に…
スクスク えっ。

p子 …きつと仇を討ってあげる。

鳥人間 お、かあ、さん…

スクスク ええっ…?

感動の音楽を突き破って、長寿庵、登場。

長寿庵 はいはい、ごめんなさいよ。

長寿庵、鳥人間を担ぎ上げ、連れ去る。

p子 ちよつと! あんたなにすんの! その子返しなさい!

鳥人間 おかあさああああん。

長寿庵 はいはいはいはい…(とつとと退場していく)

p子 こらあ! 待ちなさい! あんたは誰!

鳥人間 おにいちゃああああん。

スクスク お父さん。

長寿庵 …(ギクリ)

ギクリの音。

長寿庵 はいはいはいはい…

p子 待ちなさい、こら!

鳥人間 おにいちゃああああん、おかあさあああああん…

長寿庵、p子、スクスク、退場。ていうか後ろに下がる。

第二話 オーディション

女の子ふたり、頂富士子と吹雪くらら、登場。

富士子 おかさあああああん。

くらら おにいちやああああああん。

富士子 おかさああああああああん。

くらら おにいちやああああああああん。

橘愛綺堂、登場。ていうか活性化。

愛綺堂 それまで！

くらら 先生！

愛綺堂 おまえたたちの熱意はよくわかった。その力量、いずれも甲乙つけがたい。

くらら 橘先生！ 鳥羽ムチムチはわたししかいません。わたしでなければできないです。この吹雪くららでなければ。

愛綺堂 自信满满だな。頂くんはどうだ？

富士子 …あの、あたし…。

愛綺堂 なんだ、遠慮せずに言ってみたまえ。

富士子 …うまく言えません。

愛綺堂 そんなことではいかなぞ。声優の道は遠く険しい。もっと自己主張しなければ生き残ることはできん。吹雪くんを見たまえ。あえて不自然なセリフまわしをしてまで早めに自分のフルネームを言うその根性。

くらら 早め早めよっ。

富士子 ……頂富士子。

愛綺堂 フルネームだけ投げ出してどうする。そういうことではなく。

富士子 あたし、あんまりムチムチじゃないし…

愛綺堂 なにを言つとるのだ。

くらら あんまりじゃなくて全然ムチムチじゃないわ！

愛綺堂 おまえもだ。なにを勝ち誇っておる。いいか、吹雪くん、頂くん、君たちの実力は伯仲しておる。いずれもこの橘愛綺堂の後を継いで声優の王道を歩むにふさわしい力の持ち主だ。そしてこの鳥羽ムチムチの声こそ、声優界の新しい女王への登竜門となる役となろう。

くらら あたし！ あたし！

富士子 …あたしも。

愛綺堂 あとはライバルを蹴落とす気迫の問題だ。

愛綺堂、中央に椅子を出す。

愛綺堂 これが声優界の女王の椅子だ。

愛綺堂、椅子を挟んだ位置にくららと富士子を置く。

愛綺堂 これからお互いに、交互に相手の悪口を言う。そして言葉に詰まったほうが負け。勝ったほうは一步、この椅子に近づくことができる。よいか。いくぞ。…
 スターーート！

悪口の言い合いがはじまる。

エチュードでやった感じでOKよ。

軌道修正は愛綺堂先生がしてネ。

くらら ばか。

富士子 ばかじゃないもん。

くらら だいたいあんた暗いのよ。

富士子 いいじゃない暗くたって。

くらら そんなことじゃいつまでたつたつてダメよ。

富士子 ほっといてよ。

とかなんとか低次元の言い争い。

富士子の覇気の無さに、くららはいつの間にか励ましたりしている。

富士子の恋人、梅中川くんの話が出てくる。

くらら ……なによ、はつきり言いなさいよ。だいたいその梅中川くんて誰なのよ。

富士子 梅中川くんはいいよこの坊ちゃんよ。

くらら いいとこつてどこよ。

富士子 知らないわよ。

くらら その梅中川くんがどうしたのよ。

富士子 もういいのよ。

くらら いいことないでしょ。はつきりしなさいよ。

いつの間にか富士子の身の上相談のようになってる。

富士子 梅中川くんはいつもオシャレで、紳士的な人でした。いいよこの坊ちゃんだったのです。梅中川くんが私に告白してきたのは、中学二年の冬でした。そのときから、梅中川くんとわたしの、長い長いおつきあいが始まったのです。

くららと橘、静かに引つ込む。

梅中川くん登場。

梅中川 富士子さーーーん。

富士子 ……。

梅中川 待った？

富士子 うん。

梅中川 僕も今来たばかりだよ。

富士子 そう。なんか会話がかみあってない気もするけど、梅中川くん。

梅中川 なんだい？

富士子 わたしたち、もう別れましょ。

梅中川 えっ。(展開の速さに驚く) もう？ 早いな…。

富士子 これ以上続けていけないの。

梅中川 長い長いおつきあいの部分は、ないの？

富士子 梅中川くんの家は日本でも有数の、いいところの坊ちゃんですよ。
梅中川 うん。

富士子 わたしは貧乏な家の長女で、声優志望の平凡な女の子。逆立ちしたって釣り合いがとれないわ。

梅中川 そんなことないよ。

富士子 逆さにしたって鼻血もでやしない。

梅中川 なにを言ってるんだ。貧富の差なんて関係ないさ。富士子ちゃんはたとえどんな環境でも、ひょうひょうと、そう、まるで柳に風って感じでやっていける。僕にはわかるよ。

富士子 …。(じつと梅中川の顔を見る)

梅中川 …。(富士子の顔を見返し、微笑む)

富士子 …もうやめてっ。

梅中川 …はあ？

富士子 わたし知ってるの。見ちゃったのよ。

梅中川 見ちゃったって、なにを？

富士子 聞いちゃったのよ。

梅中川 聞いちゃったって、なにを？

富士子 あなた、お見合いたんてしよ。

梅中川 …。

富士子 相手は日本でも有数のいいところのお嬢さんだって。

梅中川 富士子ちゃん、ちょっと待ってよ。

富士子 しかも美人。

梅中川 富士子ちゃん。

富士子 お見合いの席で意気投合したって。もう街中噂でもちきり。

梅中川 えっ。

富士子 梅中川くん、こたつの下でこっそり足をのぼして、相手の人の膝のあたりを足の指先でさすりさすりしてたじゃないの！

梅中川 …富士子ちゃんはどこにいたの？

富士子 あたしはいいの。あなたはあなたの世界でしあわせになって。さようなら、

梅中川。

梅中川 呼び捨てかい。

富士子 楽しい時間をありがとう。さようなら、梅中川。わたしは、わたしは…スターになります！

富士子、走り去る。

梅中川 富士子ちゃん！ 富士子ちゃああああん…！

ひとりになる梅中川。

梅中川 …誤解だよ、富士子ちゃん…違うんだ。あれは親が勝手に…

よろよろと椅子に座る梅中川。

ここは居酒屋。

飲めない酒を呷る梅中川。

梅中川 ……親父、酒ないよ酒。……ちきしょう……断るつもりだったんだ……断って、家を出て、富士子ちゃんとふたりで、金にものを言わせて悠々自適の生活を送る……そう心に決めていたのに……それなのに……富士子ちゃん……

とかなんとか、管を巻く梅中川。

梅中川 おえっ……気持ちわりい……ふだん酒なんか飲んだことないからなあ……親父、トイレどこ？……え、外？……この店トイレないの？……外の公衆便所？……じゃあ、また戻ってくるから……え？……飲み逃げ？……しないよ、そんなこと……わかったよ、じゃあここに、財布おいてくから（椅子の上に財布を置く）じゃあね……外ね……ああ、漏れそう……

梅中川、去る。

第二話 取調室にて

戸塚刑事と久遠寺龍子。
戸塚刑事、椅子のうえの財布を取り上げる。

戸塚 話はそれだけですか。

龍子 …はい。

戸塚 ま、お座りください。

龍子、黙って座る。

後方に下がった役者たちは戸塚署吹奏楽団として、練習をはじめている。

戸塚 もう一度お聞きしますが、本当に梅中川さんの居所に心当たりはないんですね。

龍子 ございません。

戸塚 …この財布は？

龍子 巨泉さんのだと思えます。

戸塚 見たことがある？

龍子 ええ。

戸塚 そうしてこの財布を残して、梅中川巨泉氏はふつりと姿を消した。ああ、漏れそう、という最後の言葉を残して…。

龍子 …。

戸塚 申し遅れました、戸塚署捜査一課の戸塚達郎刑事です。

龍子 お世話になります。

戸塚 そしてこちらが、戸塚署吹奏楽団の面々です。

龍子 はあ。

戸塚 事情聴取が、たまたまカブリましてね、練習と。ここしか場所が空いてなかったんで。すみません、うるさくて。

龍子 いえ。

戸塚 …オイ、それ音狂ってるぞ。ちゃんと合わせて。…さて、と。話を戻しましょ

うか。…久遠寺、龍子さん。

龍子 はい。

戸塚 あなたは梅中川氏とお見合いをし、結婚を前提に交際を始めていた。そうです

すね？

龍子 はい。

戸塚 ところが梅中川氏には意中の女性が別にいた。これは頂富士子という声優の卵で、梅中川氏とは中学の同級生だった。あなたはそれを知っていたわけですね？

龍子 知っていました。ですから縁談も、彼との交際も、お互いの両親の手前、仕方なく…

戸塚 久遠寺家は日本で一、二を争う大富豪だ。梅中川家と久遠寺家が姻戚関係を結べば、日本の政財界、金融界、法曹界にあたる影響は測り知れ…うるさいな、もつと静かにやれんのか！

龍子 …。

戸塚 すいませんね、うるさくて。

龍子 いえ。あの、刑事さん。

戸塚 戸塚です。戸塚署の戸塚です。

龍子 戸塚さん、わたし、疑われているんですか？

戸塚 それ、音狂ってるってば。ちゃんとチューニングした？

龍子 巨泉さんのおつきあいは形式的なものでした。はつきりおっしゃってください。わたしが疑われているんでしょうか。

戸塚 うーん。そうですねえ、まあ、疑っていないと言えば嘘になりますか。

龍子 どうしてわたしがそんなこと…わたしじゃありません。わたしなにも知りません。

戸塚 本当に？

龍子 はい。

戸塚 本当に本当？

龍子 本当に本当。

戸塚 なにも知らない？

龍子 だいたいわたしがどうして巨泉さんを誘拐しなきゃいけないんですか。

戸塚 …。

龍子 証拠でもあるんですか。

戸塚 …場所がね…。

龍子 場所？

戸塚 ここ数週間のあいだ、戸塚署の管轄内では、七件の失踪事件が起きています。いずれも目撃者なし、まあ同じようなケースです。失踪した人間は、十歳の女の子から七十過ぎの老人に至るまで、てんでバラバラで、なんら関連性はないものと、当初は考えられていた…。

龍子 …それが？

戸塚 ですから、場所なんです。この七つの失踪事件の起きた場所を地図上でポイントすると、ひとつのきれいな円がでかあがる。

龍子 …。

戸塚 その円の中心にあるのが、久遠寺さん…あなたの屋敷なんです。

龍子 …。

戸塚 これ、どういうことですかね？ 偶然ですか？ ねえ、久遠寺さん。

龍子 …。

戸塚 なにかご存じなんじゃありませんか。

龍子 わたし…なにも…なにも存じません！

戸塚、龍子をじっと見つめている。

龍子は明らかに動揺している。

長寿庵、登場。

長寿庵 毎度。長寿庵です。

戸塚 ああ、カツ井が来た。こっちにもらおう。

長寿庵 毎度。

戸塚 やっぱ取り調べにはカツ井ですよ。

龍子 …。

長寿庵、カツ丼を戸塚に手渡す。
長寿庵、ちよつと離れて立つ。
龍子、その長寿庵を不審そうにじつと見ている。

戸塚 じゃあ、失礼して…いただきませう。
龍子 ……

戸塚、ひとりでカツ丼を食べ始める。

戸塚 うまい。

と言うが早いか戸塚床に倒れていびきをかき始める。
カツ丼に睡眠薬が仕込まれていたのだ。

龍子 戸塚さん？ あの…

長寿庵 ただの睡眠薬ですよ。お嬢さん。

龍子 ……あなたは…鳥羽さん！

長寿庵 驚きましたか？ さあ、今のうちに逃げましょう。

龍子 じゃあ、やっぱり…

長寿庵 そうです。

龍子 失踪事件というのは…あれが…。

長寿庵 そう、鳥人間の仕業です。

龍子 ああ、なんてこと…。

長寿庵 鳥人間は代々久遠寺家の守り神として、あなたの屋敷の裏庭から、数百年間出たことがなかった。それが数週間まえに豆腐屋の笛の音に惹かれて外へ出てしまった。それ以来、謎の失踪事件が相次いでいる。わたしが頼まれた仕事は、鳥人間を捕獲して、久遠寺家に連れ戻すこと。

龍子 わたしがエサをちゃんとあげなかったのがいけないんです…。わたしのせいなんです。

長寿庵 とにかくここから出ましょう。さ、早くこっちへ。

長寿庵、龍子に手を差し伸べる。

龍子、その手をとろうとする。

p子登場。

p子 お待ち！ 追いつめたわよ、鳥人間！

龍子 あなた誰？

p子 わたしは妖怪ハンター、長谷川・ウオリントン・p子。鳥人間を追いかけてこへきたの。騙されちゃダメ。鳥人間は、触った人間そっくりに化けることができるの。ムチムチの時もそうだった。でもわたしの目はごまかせないわ。覚悟おし、鳥人間！

長寿庵 ……

p子 もう逃げられないわよ。

p子と龍子、じりじりと長寿庵（鳥人間）を追いつめる。
長寿庵（鳥人間）じりじりときがる。
目が覚める戸塚刑事。

戸塚 あれ、俺、どうしたんだっけ…

p子 スクスク！ こっちへいらっしやい！

戸塚 は？ わ。

長寿庵、鳥人間に変身している。

p子 ほらこれ持つて。みんないいわね。決着をつけるわよ。いくわよ！

p子、イントロ。

それに続いて戸塚署吹奏楽団の演奏。

「上を向いて歩こう」の見事なハーモニーがこだまする。

みんな必死である。

苦しむ鳥人間。

倒れる鳥人間。

演奏が終わる。

スクスク（戸塚）、いつの間にか本を手にして振り返る。

スクスク（本を開く）…こうして鳥人間は捕まり、無事久遠寺家に連れ戻された。誘

拐された人たちはみんな帰ってきた。もちろん、立派に成長したムチムチも。：

お父さんは相変わらず探偵の仕事で忙しい。お母さん…p子さんからはときど

き手紙がくる。妖怪をしとめた記念写真とかを送ってくる。写真の中のp子さ

んは、いつも笑顔だ。とても輝いている。僕とムチムチは、その写真を見ては、

世の中にはいろんな妖怪がいるんだなあと、まだ見ぬ世界のことを思いを馳せ

ている。おわり。……………。

スクスク、本を閉じ、空を見上げる。

音楽とともに、幕。

みなさんお疲れさまでした。